

津川 由夏 校長

寄小学校



経歴／川村小学校に新採用教諭として着任。それ以降南足柄小学校教諭、相和小学校教諭、開成小学校教諭、開成南小学校教諭・総括教諭、北足柄小学校教頭を歴任。

【着任にあたって】
ウグイスの鳴き声、真っ青な空にゆつくりと流れる雲、そして月明かりに浮かぶ温かな学び舎。寄小学校に着任して、地域に、家庭に、自然に、大切に守られていることを実感しています。子どもたち一人ひとりのよさが輝き笑顔あふれる学校でありたいです。地域の中の学校として、小規模校だからこそできることや、地域の特色を生かした教育活動の実践に努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

津田 将美 校長

松田小学校



経歴／松田小学校に新採用教諭として着任。それ以降、中村小学校教諭、岡本小学校教諭、岡本小学校総括教諭、向田小学校総括教諭、寄小学校教頭、開成小学校教頭、開成小学校校長を歴任。

【着任にあたって】
新採用の時には、伸び伸びと教育に向かわせていただきました。寄小学校では、地域の温かき、子どもたちの純朴さにふれました。立場は変わっても、恩返しのお機会が与えられたことをうれしく思います。よろしくお願いたします。

学びの広場

2020 5月号

新しい校長先生です。よろしくお願いたします。

4月1日付けで、松田小学校と寄小学校に新しい校長先生が着任しましたのでご紹介します。

問 教育課 学校教育係 ☎(83)7023 生涯学習係 ☎(83)7021

【着任にあたって】

新採用で松田小学校にお世話になってから、実に久しぶりに帰ってきました。前任校の前には、やはり寄小学校にお世話になっていたため、つくづく松田町とは縁があるんだなあ、と感じています。

【着任にあたって】

ウグイスの鳴き声、真っ青な空にゆつくりと流れる雲、そして月明かりに浮かぶ温かな学び舎。

今年で5年目を迎えた「寺子屋まつだ」

教育活動支援事業

4月から月2回土曜日の「寺子屋まつだ」を始める

日本舞踊、茶道教室も開催予定です

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を休止しています。ボルダリングや漢字・算数の予習・復習、そろばんに英会話、コーラスのほか、中学生の英語・数学のサポート学習も予定しています。また、新たにダンス（ヒップホップ）と



寺子屋まつだの様子

また、夏休み期間中は、特別企画も予定しています。スは途中からでも入会できますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。月2回の土曜日を、お子さんが楽しく学べる時間に

松田町をもっともっと知ってみませんか

書名	発行年	価格(円)
まつだの歴史	S53	1,700
続まつだの歴史	S59	2,800
松田町の年中行事	S57	400
松田町の道祖神	S56	500
松田町の指定文化財	S60	250
松田の地名	S63	800
松田町皇国地誌残稿	H1	800
松田の史話 第一集※	H2	1,500
松田の史話 第二集	H3	800
まつだの歴史年表	H6	500
松田の文化財案内	H10	400
松田町の古文書抄	H19	800
歩いてみよう 松田の歴史	H24	200
松田の自然探訪	H24	700

教育委員会では、松田の歴史や文化財などを広く皆さんに知っていただくために、代々の文化財保護委員会を中心に冊子を発行してきました。図書館カウンターにて販売していますので、お買い求めください。

※残りわずかです



松田の歴史冊子

松田文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その9

文化財保護委員 鈴木 一行

先史・古代の遺跡や遺物(四) 弥生時代のお椀

紀元前5世紀頃から古墳時代が始まる3世紀半ばまでを弥生時代と呼びます。この文化の特徴は、水稲耕作を基礎とし、弥生土器や鉄・青銅などの金属器を使用し、大陸系の磨製石器や機織り技術をとまなう事です。

なお、この時代は土器の編年をもとに、前期・中期・後期と区分されます。しかし近年「水稲耕作の開始は紀元前10世紀」という説が発表され、時代区分の見直しを迫られています。

さて、水稲耕作の普及により生活は安定し、人口も増え、集落の規模は拡大しました。だが、貧富の差や階級が生まれ、土地や水利権を巡って集落間の争いが始まったのも弥生時代からです。強い集落が周辺の集落を統合して「クニ」をつくりま

す。その延長線上に邪馬台国もあるのです。ところで、県内では前期の小規模な遺跡が山間部や丘陵部で発見されています。次いで中期になると低地に大規模な集落が現れます。小田原市の中里遺跡はその代表です。

松田町では各所から土器片などは見つっていますが、残念



御神宝椀

「本品は、いずれも神社創建当時よりの御神宝として、丁寧に保存されてきたものである。材質は樺で塗りの跡はなく、高台が特に高く、ロクロ目荒く、表面が

輪なりにごつく、あたかも縄文のように見える。なお、全体の形は、ふつくらとして量感に富み、誠に格調高く感じられ、稀に見る逸品である」

ロクロを使用した挽物としての椀の製作技術は、弥生時代にはほぼ完成されていました。ただ、木製品は腐敗しやすいため、遺跡から完全な姿で出土する例は多いとは言えません。その意味で御神宝椀が守り伝えられてきたのは、歴代の神職や氏子の方々のお陰だと言えるでしょう。